

平素より大変お世話になっております。
粒子線医療センターだより第15号をお届けいたします。
2023年の最初は、膵がんの粒子線治療をとりあげます。



院長 沖本 智昭

皆さんご存知のとおり膵がんは最も完治困難な悪性腫瘍です。

膵がんの5年生存率をアップさせるためには、

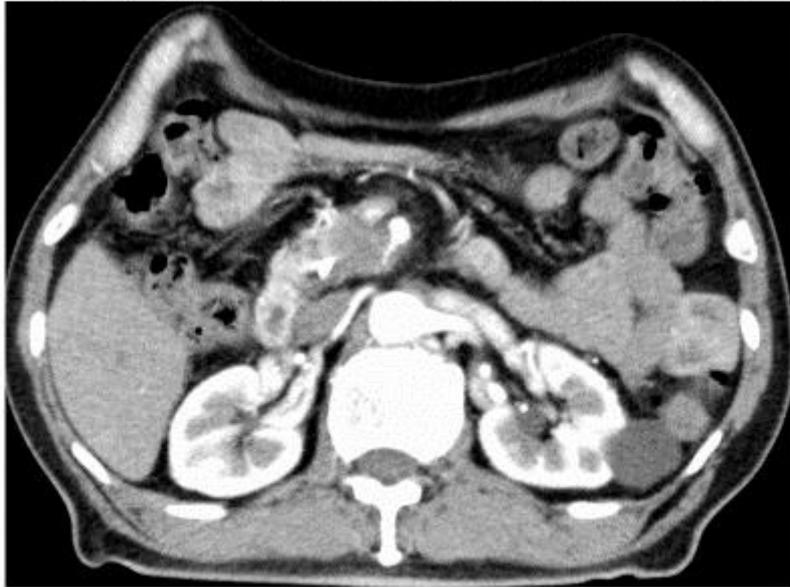
①早期発見、②原発巣の治癒率向上、③肺・肝転移や腹膜播種の制御の全てで進化が必要となりますが、その中で粒子線治療が果たす役割は②の原発巣治癒率向上です。膵がんに対する粒子線治療の成績は、2016年5月～2019年6月まで日本の全粒子線治療施設で治療した切除不能局所進行膵がんⅢ期349例の解析で、全生存率は1年75.8%、2年38.8%、生存期間中央値20か月でした。また、Grade3以上の有害事象はGrade3:12例、Grade4:3例、Grade5:0例でした。この成績は科学的評価によりX線より優れている事が示され、2022年4月より根治切除が困難と判断された局所進行膵がんに対する陽子線治療、重粒子線治療が保険適用となりました。先進医療から保険適用となり、治療費を心配せずに粒子線治療を受けていただけるようになった事で粒子線治療を受ける膵がん患者さんは全国的に増加しています。しかし、どのような病態の患者さんにどのタイミングで粒子線治療を受けるのが良いかについて未だ答えは出ていません。

そこで、当院主催で2023年3月25日に【膵がんエキスパートミーティング in 兵庫】という講演会を姫路で行います。第一部は膵がん治療エキスパートの講演、第二部は切除不能局所進行膵がんに対する治療戦略（化学療法、コンバージョン手術、粒子線治療など）について、講演者と会場参加の膵がん治療に携わる医師と徹底的にディスカッションするのが目的です。現地参加が難しい先生方のためにオンライン配信も予定しています。切除不能局所進行膵がんに対する治療戦略を一緒に考えましょう。

参考のため、当院で粒子線治療を施行した膵がん症例を次頁に示します。

【症例1】

77歳 UR-AのPDAC(切除不能局所進行膵管癌)
化学療法(GC→GS)行うもPDとなった。



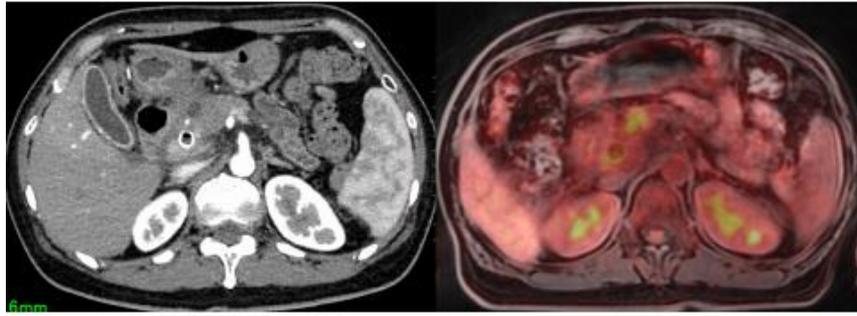
【症例2】

75歳 PDAC術後(pT2N1M0, IIB)の局所再発
化学療法(GnP)行うもPDとなった。



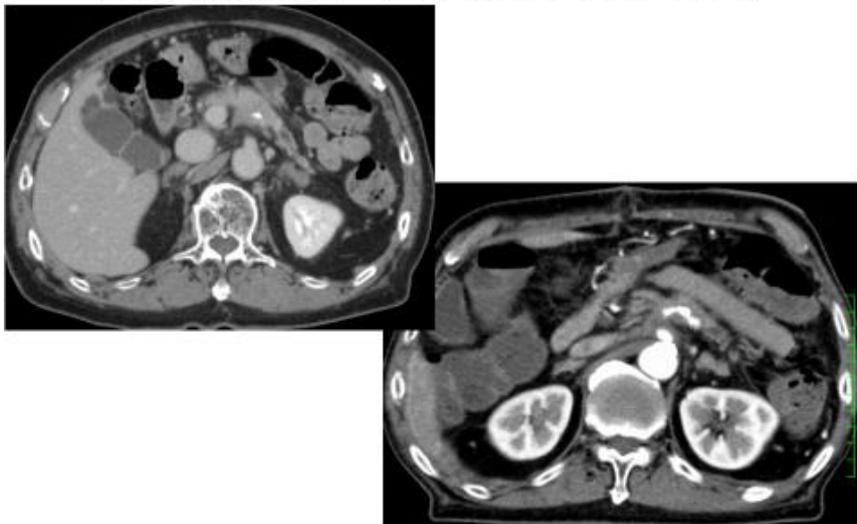
【症例3】

59歳 PDACに対してコンバージョン手術を受けるもR1切除となった



【症例4】

79歳 UR-AのPDAC(切除不能局所進行膵管癌)
化学療法(GnP)行うもPDとなった。



【症例5】

90歳 R-PDAC(切除可能膵管癌)
高齢で合併症から根治切除および化学療法困難



陽子線治療・重粒子線治療の診療区分について

- A. 陽子線治療及び重粒子線治療が保険診療で施行可能な疾患
限局性の骨軟部腫瘍（手術による根治的な治療法が困難なもの）
頭頸部悪性腫瘍（口腔、咽喉頭の扁平上皮がんを除く）
限局性及び局所進行性前立腺がん（転移を有するものを除く）
大型肝細胞がん（長径 4cm 以上かつ手術による根治的な治療法が困難なもの）
肝内胆管がん（手術による根治的な治療法が困難なもの）
局所進行膵がん（手術による根治的な治療法が困難なもの）
手術後に局所再発した大腸がん（手術による根治的な治療法が困難なもの）
- B. 陽子線治療のみが保険診療で施行可能な疾患
小児腫瘍（限局性の固形悪性腫瘍に限る）
- C. 炭素線治療のみが保険診療で施行可能な疾患
局所進行子宮頸部腺がん（手術による根治的な治療法が困難なもの）
- D. 陽子線治療が先進医療で施行可能な疾患
脳腫瘍、頭頸部悪性腫瘍（口腔、咽喉頭の扁平上皮がん）、肺・縦隔腫瘍、上記 A 以外の消化器腫瘍、泌尿器腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍（いずれも根治的な治療法が可能なものに限る）
- E. 重粒子線治療が先進医療で施行可能な疾患
肺・縦隔腫瘍、上記 A 以外の消化器腫瘍、泌尿器腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍（いずれも根治的な治療法が可能なものに限る）
- F. 陽子線治療及び重粒子線治療が自由診療で施行可能な疾患
上記の保険診療、先進医療で施行できない疾患だが、当院、兵庫県立がんセンター、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院、神戸大学医学部附属病院、IHI 播磨病院の医師および医療スタッフによるカンサーボードで認められた疾患

ご紹介の手順

●初診

当センターのホームページ内の [主治医の先生へ](#) から疾患ごとの様式をダウンロードし FAX で送信ください。また COVID-19 感染対策の一環として、オンライン診療を行っています。感染が心配な場合、遠方にお住まいのかたに好評を得ております。ご紹介いただく場合にはご検討いただければ幸いです。

●セカンドオピニオン

医療機関・患者さんのいずれでも予約ができます。
ホームページから様式をダウンロードし、FAX 送信していただくか、お電話でも予約が可能です。オンライン診療も行っています。

●メール相談

粒子線治療の適応についてのご相談を随時受け付けております。
詳しくはホームページをご参照ください。

粒子線 兵庫

検索